

男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 便り

2023 年度 JES We Can 支部活動の報告

◎：支部代表、○：報告者、(新)：新委員
支部代表以下は五十音順

[北海道支部 第 23 回北海道支部学術集会]

開催日：2023 年 10 月 22 日(日)

会 場：札幌プリンスホテル 国際館パミール

会 長：木島 弘道(国家公務員共済組合連合会 斗南病院 糖尿病・内分泌内科)

企 画：2023 年度 JES We Can 北海道支部賞 受賞講演

受賞者：高橋 由華(国家公務員共済組合連合会 斗南病院 糖尿病・内分泌内科)

女性医師専門医育成・再教育プロジェクト“JES We Can”企画セミナー

講演タイトル：まれな内分泌疾患の解析とそこから広がる世界

座 長：宮 愛香(北海道大学大学院医学研究院 免疫・代謝内科学教室)

登壇者：榎田 紀子(東京大学大学院医学系研究科 内分泌病態学)

2018 年から北海道の内分泌領域での学問と医療の進歩に貢献した女性医師を、学術論文をもとに表彰する JES We Can 北海道支部賞を設けております。今年度は選考の上、高橋由華先生が受賞されました。今後も北海道の女性医師にとって指導的な存在として活躍してくださることを期待し、心から応援しています。

今回の地方会では東京大学の榎田紀子先生をお招きして、「まれな内分泌疾患の解析とそこから広がる世界」と題してご講演をいただきました。後天性低 Ca 尿性高 Ca 血症(AHH)に関して、症例との出会いから始まった壮大な研究の過程や、バイアスシグナルなど複雑な病態を身近なものに感じられるようなわかりやすい解説で教えていただきました。質疑応答も活発で、専門性を向上させたいと願うすべての医療者の心に深く響いたことでしょう。榎田先生の魅力に引き込まれ、若手医師の中にも先生のファンが増えたのではないかと感じました。本企画をプログラムに組み入れて下さった会長の木島弘道先生に深謝申し上げます。

委員氏名：◎○宮 愛香、(新)橋内博哉、中村明枝

[東北支部 第 44 回東北支部学術集会]

開 催 日：2023 年 5 月 20 日(土)

開催方式：艮陵会館(仙台市青葉区広瀬町 3-34)(現地開催)

会 長：在原 善英(独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 内分泌代謝内科)

企 画：JES We Can 企画講演

演 題 名：「【症例から学ぼう】胎児甲状腺腫を伴ったバセドウ病合併妊娠の一例」

座 長：緑川 早苗先生(宮城学院女子大学 生活科学部 食品栄養学科 教授)

プレゼンター：高橋 郁子先生(秋田大学大学院医学研究科小児科学講座 講師)

コメンテーター：荒田 尚子先生(国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター母性内科診療部長)

東北支部 第 44 回東北支部学術集会は、久しぶりの現地開催となりました。今回の JES We Can 企画は、疑問を抱えながら診断治療を行った症例をプレゼンターに提示していただき、疑問点についてコメンテーターの先生にお答えいただきながら、診断治療に必要な知識について御講演をいただく形で行いました。

JES We Can メンバーの一員である高橋郁子先生の経験した胎児甲状腺腫を伴ったバセドウ病合併妊娠症例を提示いただき、提示症例の病態の解釈および治療法に関して、国立成育医療センターの荒田尚子先生にコメンテーターとしてコメントを寄せていただきました。胎児甲状腺腫をもつ児に対するチラーゲン S の羊水内投与の具体的な方策もご教授いただき、大変勉強になりました。

フロアーからは質問が殺到し、バセドウ病合併妊娠に対する関心の高さが伺えました。教科書に記載されている診断・治療を実際の患者の診断・治療に落とし込む作業が難しい症例でしたが、コメンテーターの荒田先生による明解なコメント、解説により、症例の理解がより一層深まり、有意義なセッションとなりました。

会長である在原善英先生には、本企画に関して、多大なるサポートを賜りました。この場を借りて、深謝申し上げます。



荒田先生を交えて記念撮影

委員氏名：◎○櫻井華奈子、木下敬子、高橋郁子、羽田幸里香、緑川早苗

〔関東甲信越支部 第24回関東甲信越支部学術集会〕

開催日：2023年9月8日(金)～9日(土)

会 場：KFC Hall&Rooms(国際ファッションセンタービル)

〒130-0015 東京都墨田区横綱1-6-1

会 長：田辺 晶代先生(国立国際医療研究センター 糖尿病内分泌代謝科)

●企画名1：JES We Can 企画

講演タイトル・演者(発表者)：

1) 私の内分泌代謝学・研究と臨床

吉原 愛先生(伊藤病院)

2) 小児内分泌学とワークバランス—医学教育キャリアのススメ

矢ヶ崎 英晃先生(山梨大学医学部 小児科)

3) 内分泌診療からジェンダー・イノベーションまで —JES We Can 活動を活かして—

片井 みゆき先生(政策研究大学院大学 保健管理センター)

座 長：田島 敏広先生(自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児科)

小澤 直子先生(草加市立病院 内分泌・代謝内科)

●企画名2：JES We Can 優秀演題賞選考

審査員(自施設の候補者の採点はせず)：

大会長：田辺 晶代先生(国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科)

次期大会長：田中 祐司先生(防衛医科大学校 総合臨床部)

JES We Can 委員：田島 敏広先生(自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児科)

荒田 尚子先生(国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 母性内科)

岩部 美紀(東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科)

受賞者：横塚 里穂先生(千葉大学医学部附属病院 糖尿病代謝内分泌内科)

「CVD 療法継続困難から MIBG 内照射療法へ移行し、有効な治療効果を得られた褐色細胞腫破裂術後再発の一例」

羽田 幹子先生(日本医科大学大学院医学研究科 内分泌代謝・腎臓内科学分野)

「非膵島細胞腫瘍性低血糖症の診断における IGF-II/IGF-I 比とマイクロ RNA miR-483 の有用性の検討」

松田 花穂先生(慶應義塾大学医学部 小児科学教室)

「重複子宮を伴う WT1 46,XX 精巢性性分化疾患の一例：ミューラー管癒合不全は WT1 46,XX 精巢性/ 卵精巢性性分化疾患の特徴か」

●JES We Can 企画

今回の第 24 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会は、JES We Can 委員でもあります田辺晶代先生(国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科)が大会長をおつとめになり、大変素晴らしい大会となりました。

JES We Can 企画は、田島敏広先生、小澤直子先生と私で立案し、3 名の演者の先生にご講演をお願いいたしました。吉原愛先生(伊藤病院)は、「私の内分泌代謝学・研究と臨床」というタイトルで、これまでのご自身のご経歴をご紹介頂きながら、ご自身のお言葉で率直に分かりやすく実体験やキャリアパスに対するお考えをお話頂きました。矢ヶ崎英晃先生(山梨大学医学部 小児科)からは、「小児内分泌学とワークバランス—医学教育キャリアのススメ」というタイトルで、医学教育の視点からお話頂きました。大学の使命として、教育・臨床・研究は基本的な柱かと思えます。これまで日本内分泌学会は、長きにわたり、臨床・研究の視点においては、大変充実した歴史があります。しかしながら、教育の観点からはそれほど多くの議論がなされてきたわけではなかったように思います。矢ヶ崎先生からのお話は、ダイバーシティの推進だけでなく、新たな視点を提供するものであり、大変重要かつ貴重なお話であったかと思えます。JES We Can 関東甲信越支部代表(前)として、JES We Can 関東甲信越支部を牽引してこられました片井みゆき先生(政策研究大学院大学 保健管理センター)には、「内分泌診療からジェンダード・イノベーションまで—JES We can 活動を活かして—」というタイトルで、お話頂きました。ご自身の医師・研究者としての歩みに、卓越した診療・研究業績を交えながら、JES We Can 活動の歴史もおこみ、まさに JES We Can 活動のお手本をお示し頂いた内容で、大変心を打たれるものでした。ご講演の中での片井先生の様々なメッセージも心に刻むべきもので大変印象的でした。改めて、演者の先生方の素晴らしいご講演と優れた進行・マネジメントを下さった田島敏広先生、小澤直子先生に厚く感謝申し上げます。

●JES We Can 優秀演題賞選考

今回のエントリー数は、21 演題でいずれもレベルの高い演題であり、昨年までに続き、JES We Can 優秀演題賞の認知度の高さと若手女性研究者・医師のモチベーション向上が改めて示されたものと認識しています。5 名の審査員と当日の座長による厳格な評価に基づいて行われた審査の結果、わずかな点差により、見事、3 名の先生が輝かしい受賞の栄誉を手に入れました。横塚里穂先生(千葉大学医学部附属病院 糖尿病代謝内分泌内科)、羽田幹子先生(日本医科大学大学院医学研究科 内分泌代謝・腎臓内科学分野)、松田花穂先生(慶應義塾大学医学部 小児科学教室)、誠におめでとうございます。

JES We Can 優秀演題賞の特筆すべき点は、副賞として贈られる和光の時計です。大変素敵な時計(右写真参照)で、あらゆる若手に贈られる賞の中でも特に珍しいのではないかと思います。私自身も是非頂きたいと感じている大変魅力的な副賞です。未来に向けて新たな時を刻んで欲しい、さらなる発展を望む思いが込められているのではないかと思います。是非、来年度以降も多くの方々に JES We Can 優秀演題賞に挑戦して頂きたいと考えています。



また、日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会で授与される JES We Can 優秀演題賞につきまして、その位置づけや将来の方向性については、議論を重ね、ダイバーシティをさらに推進し、全学会員の活躍のために貢献できる形を目指したいと考えています。引き続き、皆様の継続的なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

●JES We Can 委員・協力委員

新しいメンバーの先生をご紹介します。新委員として、阿部清美先生(東京都済生会中央病院 小児科)、新協力委員として、石田恵美先生(群馬大学)、矢ヶ崎英晃先生(山梨大学医学部 小児科学講座)にご参加頂けることとなりました。阿部清美先生は、関東甲信越支部事務局としてご

活躍で、この度、JES We Can 委員としてさらなるお力添えを頂けることとなりました。また、関東甲信越支部は、日本内分泌学会の会員全体および女性会員共に、全体の約 4 割を占めることもあり、さらなる強化・発展のため、各都道府県におきまして、JES We Can 委員・協力委員のご推薦を幹事の先生方へお願い申し上げます。今回、新たに山梨大学大学院総合研究部医学域臨床医学系教授の土屋恭一郎先生より、矢ヶ崎英晃先生をご推薦頂きました。また、公立富岡総合病院内科診療部長の永井 隆先生より石田恵美先生をご推薦頂きました。協力委員に関しては人数規定がなく、随時自薦他薦共に受け付けておりますので、どうぞ協力頂けますようお願い申し上げます。また、関東甲信越支部の JES We Can 委員・協力委員のメンバー構成につきましても全学会員の継続的な活躍のために貢献できる形、全世代活躍型の体制を目指したいと考えております。引き続き、皆様の温かいご支援、ご指導をお願い申し上げます。

委員氏名：◎○岩部美紀、(新)阿部清美、荒田尚子、井下尚子、小澤直子、片井みゆき、方波見卓行、鈴木佐和子、鈴木眞理、田島敏弘、田辺晶代、中川朋子、中嶋康代、深見真紀、福田いずみ、藤田 恵、堀川玲子、榎田紀子(JES We Can 副委員長)、山口実菜
協力委員：(新)石田恵美、岩永みどり、大岩亜子、佐藤亜位、(新)矢ヶ崎英晃、山田貴徳

【北陸支部 第 22 回北陸支部学術集会】

開催日：2023 年 10 月 1 日(日)

会 長：伊藤 順庸(金沢医科大学 小児科)

企 画：日本内分泌学会北陸女性医師企画「臨床医のための内分泌症例セミナー」

講演タイトル：急性肝不全と DIC を併発し長期の ICU 入室を要した甲状腺クリーゼの一例

最優秀受賞者：横山 茉貴(富山赤十字病院 糖尿病・内分泌・栄養内科)

表彰式進行：竹下 有美枝(金沢大学 内分泌・代謝内科学)

受賞講演座長：中川 淳(金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学)、
滝川 章子(富山大学 第一内科)

2014 年から JES We Can 企画として「一般臨床医のための内分泌症例セミナー」を開催しています。これは、臨床に携わる女性医師が、過去 1 年間に発表した学会報告のうちの 1 題をもって応募、オープン参加の聴衆を審査員とした事前審査会にて最優秀賞を決定、受賞者には支部学術集会で表彰・副賞を贈呈するとともに、臨床的な啓発を意識した講演を行っていただくものです。

本年度は、若手を中心に多くの疾患症例の応募がありました。ここ数年は圧倒的な票数をもって選出されることが多かったのですが、今回は接戦でした。指導医の指導もあり若手の発表スキルが上がっていると実感しています。受賞者の横山茉貴先生には、人工呼吸器管理、CHDF、血漿交換の集約的治療がなされ救命できた症例を講演いただきました。死亡率 10%を致命的な疾患である甲状腺クリーゼの発症背景・治療も含め、受賞講演から多くのことを学ぶことができました。

本年度の会長 伊藤順庸先生は、小児科としては北陸支部初であり、小児科を中心に、北陸の女性医師の参加数、発表数、座長数が多い集会となりました。JES We Can 企画はこれまで内科を中心に行われていましたが、本年度を機に小児科・婦人科・脳外科先生の参加にも期待が寄せられます。

委員氏名：◎○竹下有美枝、中川 淳、藤井寿美枝、朴木久恵

【東海支部 第 23 回東海支部学術集会】

開催日：2023 年 10 月 7 日(土)

会 場：愛知県産業労働センター(ウインクあいち)

会 長：篠田 純治(トヨタ記念病院内分泌・糖尿病内科)

企 画：「JES We Can Tokai 企画セッション」

講演タイトル：ゲノム時代の内分泌医療

演 者：臼井 健先生(静岡社会健康医学大学院 社会健康医学研究科)

座 長：高木 潤子(愛知医科大学医学部 内科学講座内分泌・代謝内科)

2023 年度の東海支部学術集会は、名古屋駅最寄りの地にて現地開催となり、篠田純治学会長のリーダーシップの元、盛会のうちに終わりました。JES We Can Tokai では、今回の企画として、内分泌代謝領域と臨床遺伝学の接点に着目しました。近年、ゲノム医療は誰もが入手可能な治療方法の一つであり、内分泌代謝疾患の診療においても、自身の理解度が問われる場面にしばしば遭遇します。この領域に関し、エキスパートとして第一線でご活躍の臼井 健先生にご講演を頂きました。ご講演では、まず臨床遺伝学の基礎的な知識、ゲノム医療の臨床実装について広くお話を頂きました。さらに後半ではより具体的に、遺伝学的検査と結果の解釈に関して、内分泌代謝疾患を対象とした症例提示も頂きました。終了後のアンケートでは、講演内容について 8 割以上の参加者から良い～満足との答えを頂きました。

本企画を指定講演としてお取り扱い頂き、広い教育の機会を授かったことに一同感謝しながら、次の企画に反映させて参りたいと考えております。



委員氏名：◎脇 昌子、赤羽貴美子、○高木潤子、中嶋祥子、山下美穂、山本眞由美
協力委員：小杉理英子、杉山摩利子、村上雅子

【近畿支部 第 24 回近畿支部学術集会】

会 場：関西医科大学 加多乃講堂

会 長：豊田 長興教授(関西医科大学 内科学第二講座)

企 画：JES We Can 企画(男女共同参画推進企画)講演

講演タイトル：「副腎に魅せられてー褐色細胞腫から始まった私の医師生活ー」

演 者：滝澤 奈恵先生(関西医科大学 腎泌尿器外科)

座 長：井上 真由美(京都大学医学部附属病院 先制医療・生活習慣病研究センター)

増山 律子(立命館大学 食マネジメント学部食マネジメント学科)

2023 年度の近畿支部学術集会は、大阪府枚方市にある美しい関西医科大学のキャンパス内、加多乃講堂で開催されました。今回の JES We Can 企画講演は、同大学腎泌尿器外科でご活躍中の若手女性医師、滝澤奈恵先生にお願い致しました。外科医の視点からの内分泌学、めずらしい手術症例などを提示いただき、また最先端のご研究のお話までエネルギーで盛りだくさんのご講演でした。かつての大阪女子高等医専、大阪女子医科大学の流れをくむ関西医科大学の未来を背負って立たれるにふさわしい頼もしい先生でした。

また、同日開催された JES We Can 近畿支部会議では、久々の完全対面にて旧交を温めることができました。浅原委員長から日本内分泌学会 100 周年記念事業における JES We Can としての貢献についてご提案があり、メンバー一同の協力を確認致しました。

ご講演いただきました滝澤奈恵先生、様々なご高配を賜りました学会長の豊田長興先生、関係各位に心より御礼申し上げます。



滝澤奈恵先生(前列中央)と。関西医科大学建学の精神「慈仁心鏡」の書の前で。

委員氏名：◎浅原哲子、位田 忍、○井上真由美、加藤純子、新谷光世、高橋路子、中島華子、藤本美香、増山律子、三浦晶子、道上敏美

〔中国支部 第24回中国支部学術集会〕

開催日：2023年9月2日(土)

会 場：松江テルサ

会 長：垣羽 寿昭先生(松江赤十字病院 糖尿病内分泌内科 部長)

企 画：シンポジウム「性分化疾患」

JES We Can(男女共同参画推進委員会)・第24回日本内分泌学会中国支部学術集会共同企画シンポジスト：

- ・宇都宮 朱里先生(広島大学大学院 医系科学研究科 遺伝医学 客員教授)
演題名「小児科で対応する性分化疾患の診療と課題」
- ・久守 孝司先生(島根大学医学部附属病院 小児外科診療科長)
演題名「性分化異常 外性器異常の見方」
- ・大塚 文男先生(岡山大学学術研究院 医歯薬学域・総合内科学 教授)
演題名「内科臨床でも出会うかもしれない性分化疾患」
- ・鎌田 泰彦先生(岡山大学病院 周産母子センター 准教授)
演題名「思春期女性の性分化疾患について」

座 長：島根大学医学部 小児科 准教授 鞍嶋 有紀

岡山大学大学院医歯薬学総合研究域くらしき総合診療医学教育講座 三好 智子

今回の中国支部 学術集会は4年ぶりの現地開催となりました。大会長である垣羽寿昭先生が提示された副題は「ご縁の国で繋がりを想ふ」でした。そこで新生児から成人に至る全ての年齢が対象となり、複数の科にまたがる疾患である「性分化疾患」についてのシンポジウムを企画しました。外性器異常を有する児が出生した場合は早急に社会的性の決定と親に対する対応が必要となることだったり、また副腎疾患は緊急対応が必要なこともあります。さらには思春期発来障害、性腺腫瘍易発症性、性別違和、不妊症などを伴うこともある慢性疾患でもあります。長期間のホルモン補充療法を行う場合は、トランジション(移行期医療)が必要となるため診療科連携が重要です。稀少疾患が多いですが、実際に遭遇することもあるため、どのように診断し治療をおこなっているのかをそれぞれの専門家の先生にご講演いただきました。小児期の治療について広島大学 宇都宮朱里先生、手術療法については島根大学 久守孝司先生にお話をいただきました。成人期



の治療として、内科から岡山大学 大塚文男先生に、産婦人科からは手術療法も含めて岡山大学 鎌田泰彦先生にお話をいただきました。

本企画がご参加いただいた先生方の「性分化疾患」についての知識を深め、今後の診療に繋がるものになったのではないかと思います。プログラム立ち上げから大会開催まで、垣羽寿昭先生には多大なご協力を頂き、この場をお借りし深謝いたします。

委員氏名：◎三好智子、○折出亜希、鞆嶋有紀

[四国支部 第23回四国支部学術集会]

開催日：2023年9月2日(土)

会 場：高知県立県民文化ホール

会 長：藤本 新平先生(高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科)

企 画：JES We Can 四国支部企画

講演タイトル：下垂体および周辺の病理

演 者：井下 尚子先生(森山記念病院 病理診断科)

座 長：井町 仁美(香川大学医学部 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)

第23回日本内分泌学会四国支部学術集会は現地開催となりました。JES We Can 四国支部企画も井下尚子先生にご来県いただき、講演を賜ることができました。井下先生からは総会などでも度々、臨床医にとっても分かりやすい下垂体関連病理の講演を伺う機会があったので、参加者は大変期待されていたと思います。今回は下垂体および視床下部に関する先生のご研究など含めてお話しがあり、期待以上でした。病理の分野はこのように進歩しているのかと、もっと視野を広げて臨床活動をしなればと考えさせられる内容で、若手先生も含めて大変刺激になったと思います。

最後になりましたが、JES We Can 活動を支援してくださる、学会長の藤本新平先生、支部長の松浦文三先生並びに四国支部の先生方、関係各位に深謝申し上げます。

委員氏名：◎○井町仁美、吉田守美子

[九州支部 第22回九州支部学術集会]

開催日：2023年9月2日(土)

会 場：長崎ブリックホール

会 長：宇佐 俊郎(長崎大学病院 永井隆記念 国際ヒバクシャ医療センター 教授)

企 画：第8回 JES We Can 九州支部賞・受賞講演

・演題1

Molecular Pathological Characteristics of Thyroid Follicular Patterned Tumors Showing Nodule-in-Nodule Appearance with poorly Differentiated Component

上田 真由(長崎大学病院 内分泌・代謝内科/長崎大学 原爆後障害医療研究所 腫瘍・診断病理学)

・演題2

Clodronate, an inhibitor of the vesicular nucleotide transporter, ameliorates steatohepatitis and acute liver injury

蓮澤 奈央(久留米大学医学部内科学講座内分泌代謝内科部門)

・演題3

Coexistence of bone and vascular disturbances in patients with endogenous glucocorticoid excess

矢野 千絵子(九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学(第三内科))

座 長：独立行政法人 国立病院機構 小倉医療センター 的場 ゆか

JES We Can 九州支部賞を設立し8年経過し、応募論文数も毎年増加傾向にあります。

この賞が会員にとって仕事を継続していくモチベーションの維持につながることを期待しています。九州支部では委員の偏在の問題を解消するため(福岡に集中)今後1県に1名以上のJES We Canの委員を募り、委員会活動が九州支部全体に浸透していくことを目指しています。

委員氏名：◎○三宅育代、馬越真希、佐藤 薫、柴田洋孝、伊達 紫、花田礼子、松田やよい、
的場ゆか、山本幸代